

2022年度 第3四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2023年1月31日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度下期 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q3連結実績は対前年同期で増収減益、対前期で減収減益
- ◆ 原料価格は下落、為替は円安が進行
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大によるリモート・巣ごもり需要の一服継続

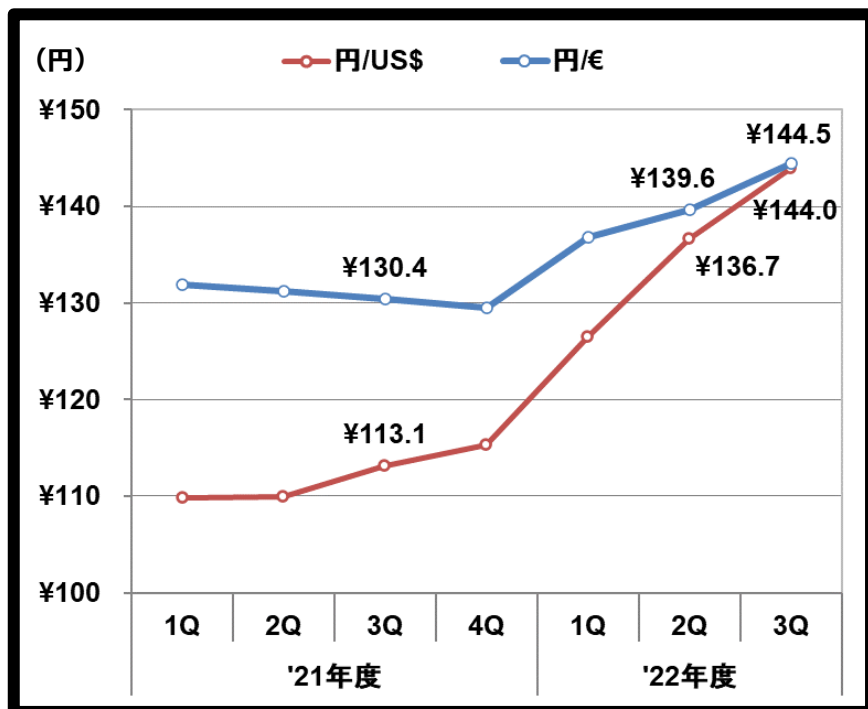
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 販売価格の改定によりYoYは増収、出荷量減の影響でQoQは減収
- ◆ エネルギー価格の高騰を受け、YoY・QoQともに減益
- ◆ 合成ゴムは主力工場の定期修繕のため、出荷量を調整

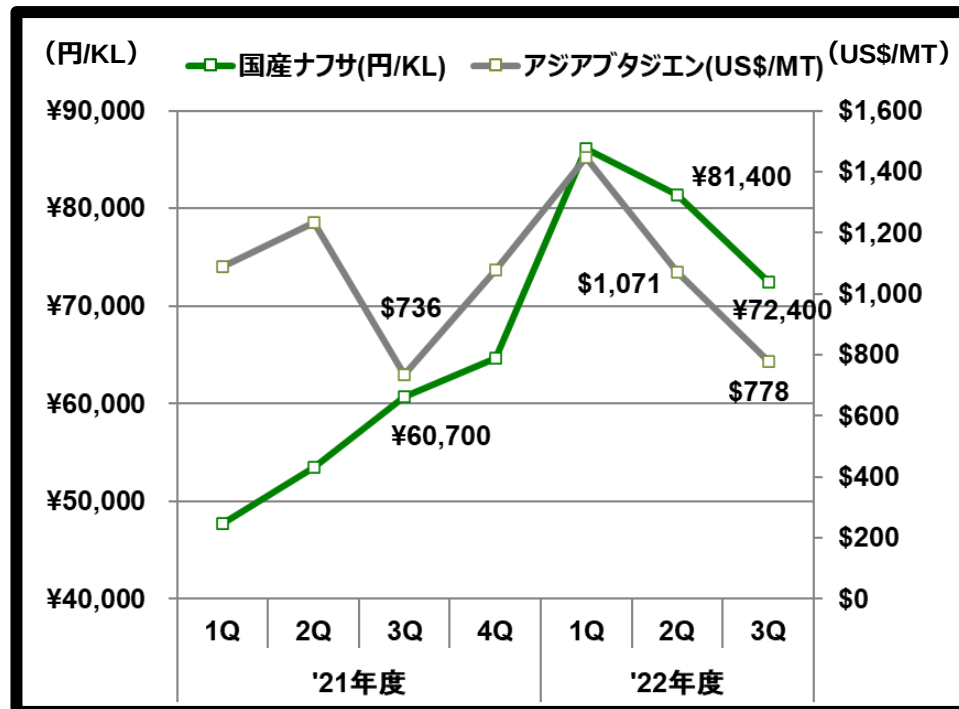
【高機能材料の概況】

- ◆ 光学フィルムの需要低下、トナーの在庫調整により、YoY・QoQともに減収
- ◆ 光学フィルムの出荷量減によりYoYは減益、光学樹脂・電池材料の出荷量増によりQoQは増益

【為替推移】



【主原料推移】



		2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥113.1	¥136.7	¥144.0	+27%	+5%
	円/€	¥130.4	¥139.6	¥144.5	+11%	+3%
主原料	国産ナフサ/KL	¥60,700	¥81,400	¥72,400	+19%	▲ 11%
	アジアブタジエン/MT	\$736	\$1,071	\$778	+6%	▲ 27%

※国産ナフサ：2021年度Q3及び2022年度Q2は確報値、2022年度Q3は当社見込値

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度下期 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2021年度 Q3累計	2022年度 Q3累計	対前年 同期比
	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減			
売上高	897	998	968	+71	▲ 31	2,688	2,942	+254
営業利益	115	95	77	▲ 38	▲ 18	364	278	▲ 86
経常利益	125	115	67	▲ 59	▲ 48	391	311	▲ 80
当期純利益	90	87	9	▲ 81	▲ 78	274	183	▲ 91

- 前年同期比 : 売上高 +71億円、営業利益 ▲ 38億円
- 前期比 : 売上高 ▲ 31億円、営業利益 ▲ 18億円
- 通期対前年度比 : 売上高 +254億円、営業利益 ▲ 86億円

注記：海外関係会社の2022年7～9月実績がQ3連結決算に反映されています。

2022年度Q3 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	490	579	559	+69	▲ 19
高機能材料	262	265	249	▲ 13	▲ 15
その他の事業、消去等	144	155	159	+15	+4
売上高合計	897	998	968	+71	▲ 31

【営業利益】	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	51	53	29	▲ 22	▲ 24
高機能材料	64	47	49	▲ 15	+2
その他の事業、消去等	▲ 0	▲ 5	▲ 1	▲ 1	+3
営業利益合計	115	95	77	▲ 38	▲ 18

2022年度Q1-Q3 業績サマリー (セグメント別)

ZEON

(単位：億円)

【売上高】

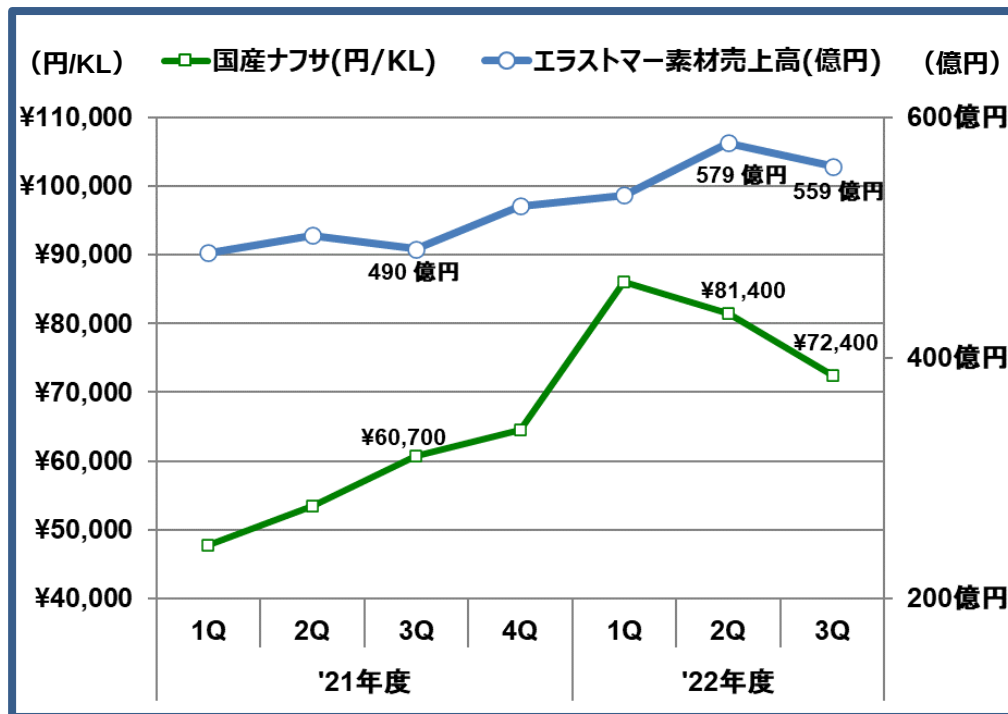
	2021年度 Q3累計	2022年度 Q3累計	2022年度 業績予想 (10/31時点)	対前年 同期比	業績予想 進捗率
エラストマー素材	1,479	1,673	2,320	+194	72%
高機能材料	803	815	1,170	+12	70%
その他の事業、消去等	405	454	630	+49	72%
売上高合計	2,688	2,942	4,120	+254	71%

【営業利益】

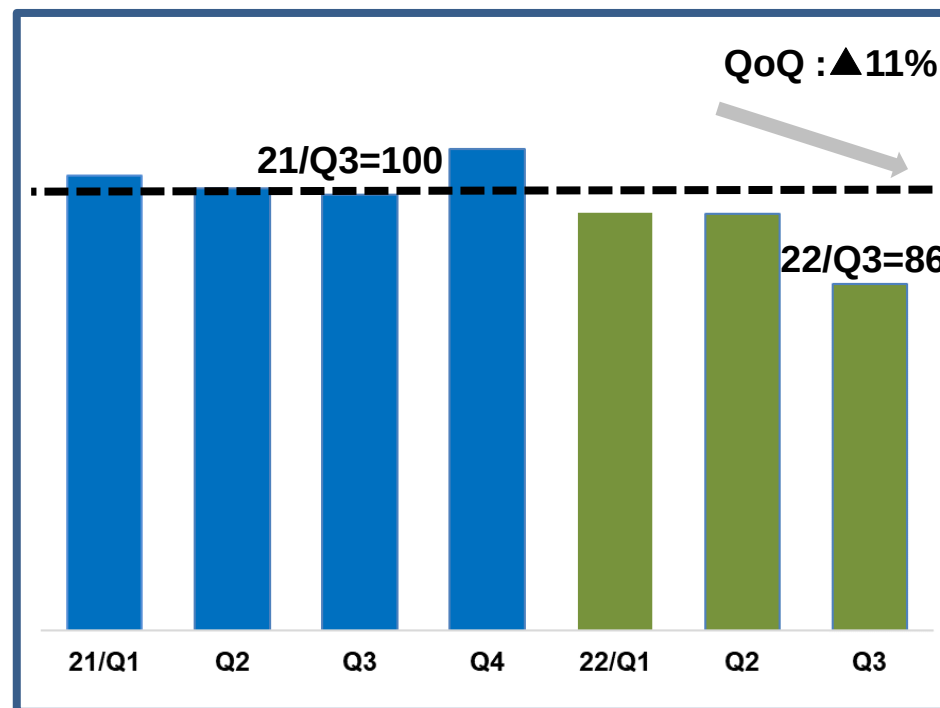
	2021年度 Q3累計	2022年度 Q3累計	2022年度 業績予想 (10/31時点)	対前年 同期比	業績予想 進捗率
エラストマー素材	159	122	160	▲ 37	76%
高機能材料	204	165	245	▲ 39	68%
その他の事業、消去等	1	▲ 9	▲ 10	▲ 10	91%
営業利益合計	364	278	395	▲ 86	70%

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度下期 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



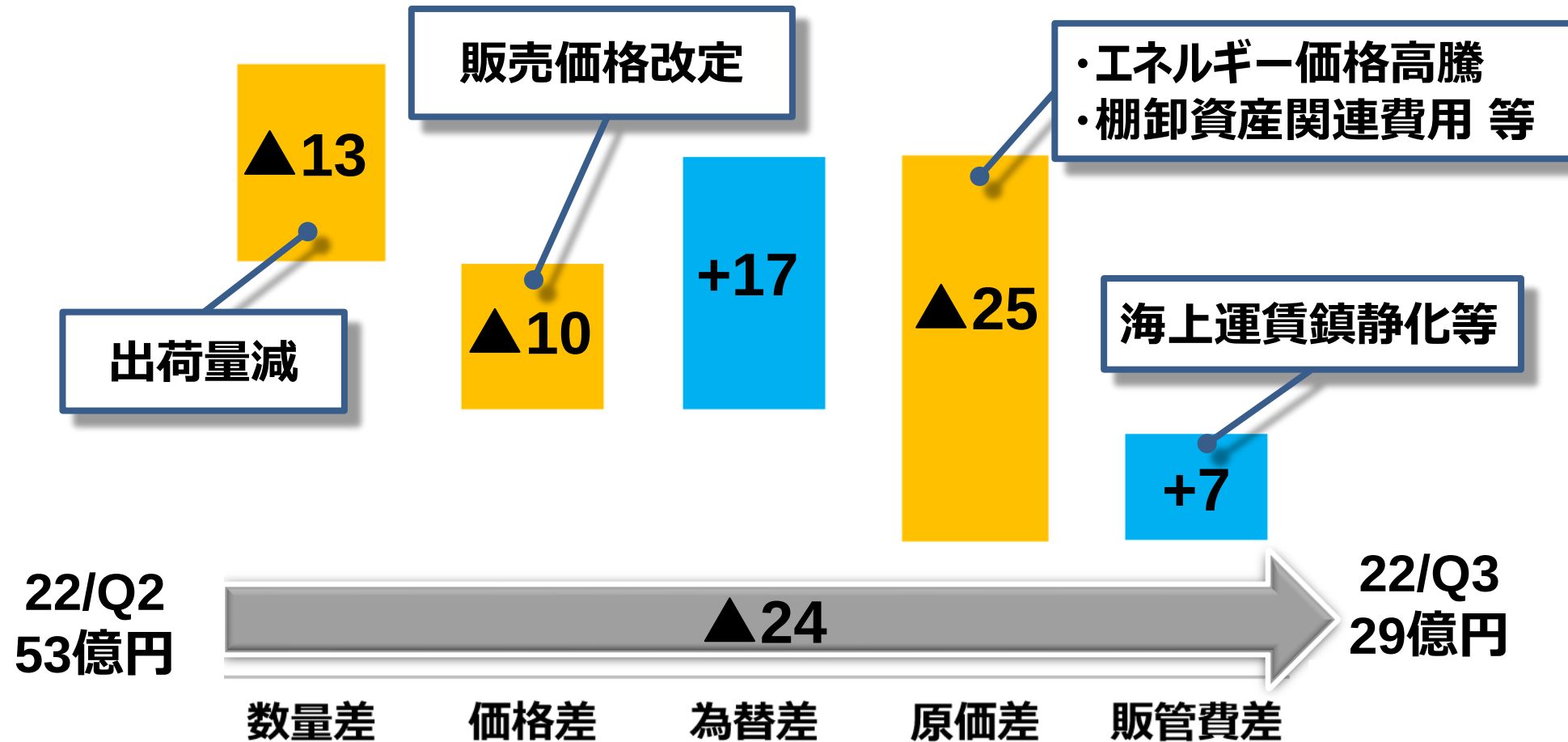
- 出荷減および国産ナフサ価格下落に伴う販売価格改定により、売上高は減少
- 合成ゴムは主力工場の定期修繕およびサプライチェーンの在庫調整により、YoY・QoQともに出荷量減

(単位：億円)	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (21/Q3=100)	100	89	78	▲ 22 pt	▲ 22 %	▲ 11 pt	▲ 13 %
合成ゴム	100	97	86	▲ 14 pt	▲ 14 %	▲ 11 pt	▲ 12 %
ラテックス	100	89	70	▲ 30 pt	▲ 30 %	▲ 19 pt	▲ 21 %
化成品	100	70	63	▲ 37 pt	▲ 37 %	▲ 7 pt	▲ 10 %
売上高	490	579	559	69	14 %	▲ 19	▲ 3 %
合成ゴム	325	416	413	88	27 %	▲ 3	▲ 1 %
ラテックス	55	43	35	▲ 20	▲ 36 %	▲ 8	▲ 20 %
化成品	103	108	98	▲ 4	▲ 4 %	▲ 9	▲ 9 %
その他・消去	8	12	13	5	64 %	1	9 %
営業利益	51	53	29	▲ 22	▲ 43 %	▲ 24	▲ 45 %
営業利益率	10%	9%	5%				

- 出荷量 : 合成ゴムは前掲、ラテックス手袋向け流通在庫過多継続、化成品販売価格改定の反動減で、YoY・QoQともに減少
- 売上高 : 円安および販売価格改定により、YoYは増加するも、出荷が振るわず、QoQは減少
- 営業利益 : エネルギー価格高騰により、YoY・QoQともに減少

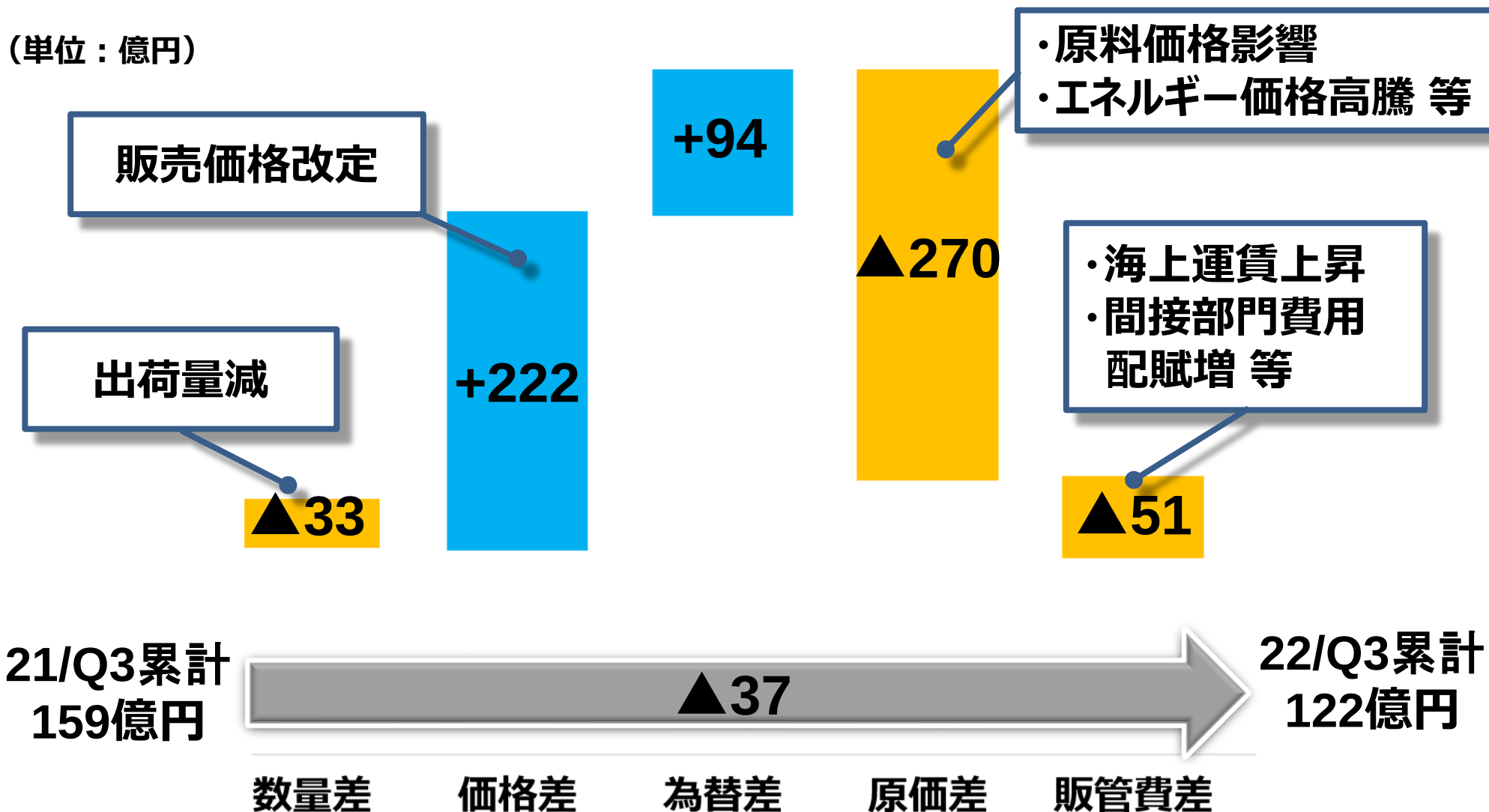
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度下期 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

(単位：億円)

	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	262	265	249	▲ 13	▲ 5 %	▲ 15	▲ 6 %
※ 高機能樹脂	159	151	141	▲ 18	▲ 12 %	▲ 10	▲ 7 %
高機能ケミカル	90	102	96	6	7 %	▲ 6	▲ 6 %
メディカル他	13	11	12	▲ 1	▲ 6 %	1	6 %
営業利益	64	47	49	▲ 15	▲ 23 %	2	5 %
営業利益率	24%	18%	20%				

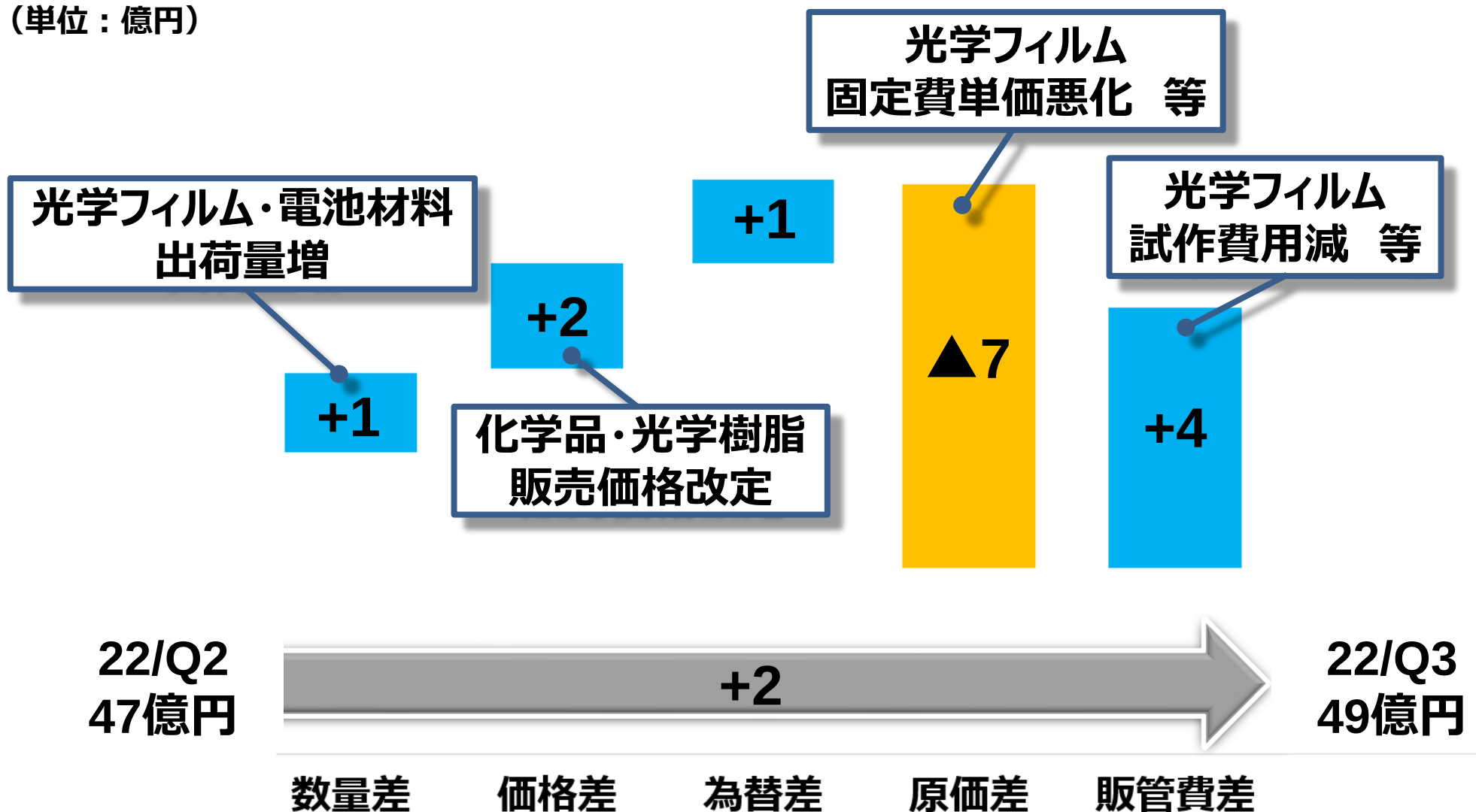
※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム
高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

- 売上高
- 高機能樹脂 : 大型フィルムは段階的な回復、中小型フィルムは出荷の端境期となり、YoY・QoQともに減少
- 高機能ケミカル : 電池材料の出荷回復によりYoYは増加、テレワーク需要の一巡によるトナー出荷量減によりQoQは減少
- 営業利益は光学フィルム出荷減によりYoYは減少、光学樹脂・電池材料出荷量増によりQoQは増加

高機能材料事業：要因別 営業利益差異（QoQ）

ZEON

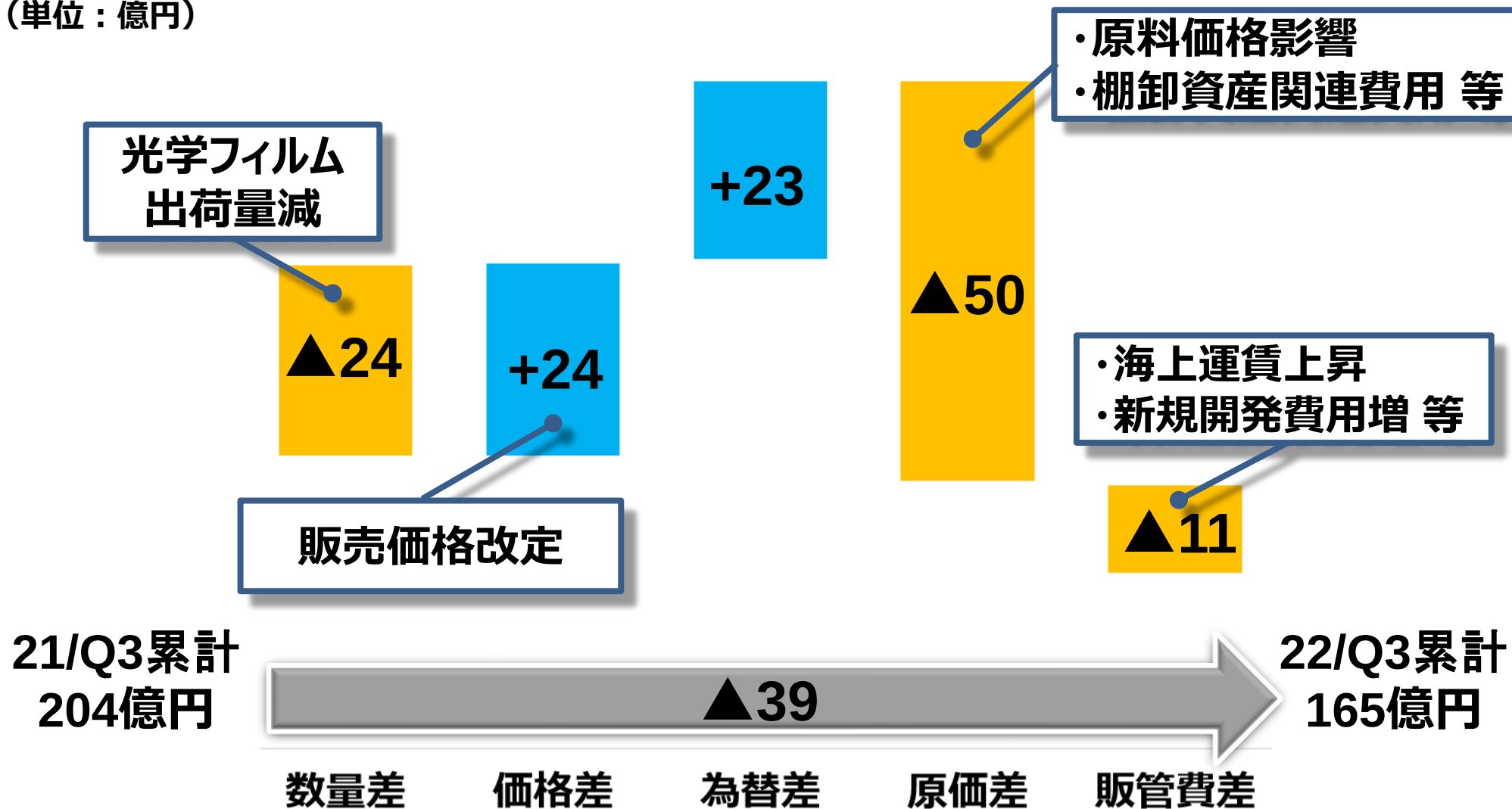
（単位：億円）



高機能材料事業：要因別 営業利益差異 (YoY)

ZEON

(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	120%	118%	128%
民生他向け	120%	197%	70%
全体	120%	128%	113%

■ EV向け

電池メーカー生産稼働回復により、YoY・QoQ共に出荷増

■ 民生他向け

モバイル端末向けは、中国春節に向けた出荷前倒しにより
YoY・QoQ共に出荷増

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	80%	107%	75%
医療その他向け	125%	78%	133%
全体	108%	85%	111%

- 光学用途向け
新型コロナウイルスおよび経済不況による需要低下を背景に、
出荷振るわず
- 医療その他向け
欧米向けのまとめ出荷の影響で出荷端境期となり、前期比は
減少するも、需要は堅調

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	83%	78%	90%
大型向け	54%	149%	64%
全体	60%	119%	69%

- 中小型向け
出荷の端境期および需要低迷により、YoY・QoQ出荷減
- 大型向け
2QTVメーカー部材調達停止から段階的な出荷回復
本格的な需要回復は23年度となる見込

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度下期 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

総資産5,382億円（+536）

【流動資産】 +380億円

- ◆現預金 ▲179億円
- ◆売掛債権 +105億円
- ◆未収入金 +101億円
- ◆棚卸資産 +329億円

流動資産
3,130
(+380)

【固定資産】 +155億円

- ◆有形固定資産 +67億円
- ◆投資有価証券 +79億円

固定資産
2,253
(+155)

【流動負債】 +309億円

- ◆買入債務 +171億円
- ◆短期借入金 +151億円
- ◆社債 ▲100億円

流動負債
1,696
(+309)

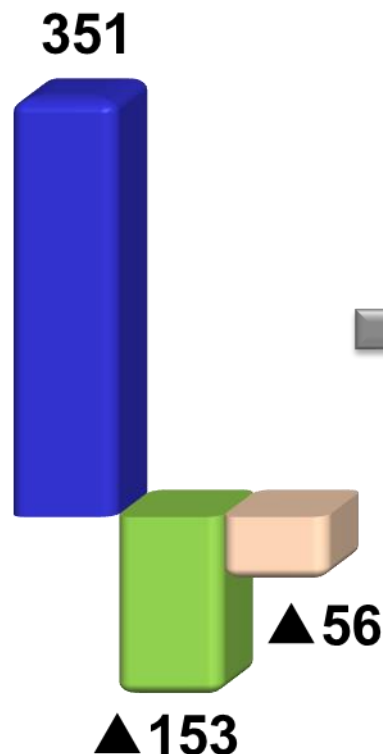
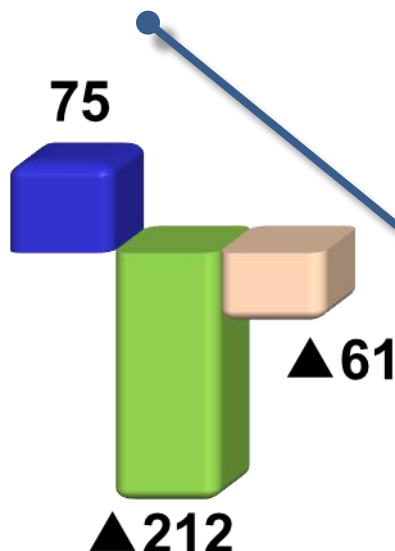
固定負債 249 (+7)

純資産
3,438
(+220)

【純資産】 +220億円

- ◆自己資本比率 63.2% (▲2.5)
- ◆D/Eレシオ 0.07 (+0.01)

(単位：億円)

2021年度Q32022年度Q3

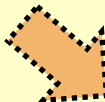
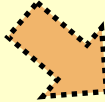
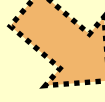
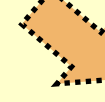
(単位：億円)

	2021年度Q3	2022年度Q3
営業CF	351	75
投資CF	▲ 153	▲ 212
フリーCF	198	▲ 137
財務CF	▲ 56	▲ 61
CF	143	▲ 198

- ・税前提利益 +251億円
- ・減価償却費 +149億円
- ・棚卸資産(定修在庫増) ▲287億円

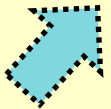
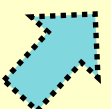
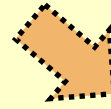
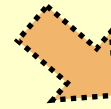
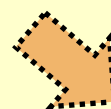
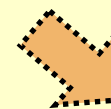
■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度下期 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

		Q3		Q4		
エラストマー 素材 (億円)	売上 実績	営利 実績	売上 予想	営利 予想	コメント	
	559	29	531	▲22	10/31通期予想に対し、 売上高▲115 営業利益▲60	
	合成ゴム					原料価格下落・円高・海上運賃鎮静化 による販売価格の下方改定 サプライチェーン在庫積み増し終息
	ラテックス					手袋用ラテックス需要回復の遅延
	化成品					原料価格下落・円高・海上運賃鎮静化 による販売価格の下方改定 出荷量減回復の遅れ

※Q3動向は10/31業績予想に対する評価、Q4の動向はQ3末を起点とした当社見立て

- Q3：全体として事業環境は悪化
- Q4：事業環境は更に深刻化すると予想

		Q3		Q4		
高機能材料		売上実績	営利実績	売上予想	営利予想	コメント
(億円)		249	49	235	24	10/31通期予想に対し、 売上高▲120 営業利益▲55
光学樹脂						光学用途は経済市況悪化で伸び悩み 医療他用途向けは総じて堅調
光学フィルム						大型フィルムの出荷回復遅延
電池材料						電池メーカー各社の生産計画の 下方修正に伴い、出荷量振るわず

※Q3動向は10/31業績予想に対する評価、Q4の動向はQ3末を起点とした当社見立て

- Q3：全体として事業環境は悪化
- Q4：経済市況悪化に伴い、出口製品の需要振るわず出荷量減を予想

(単位：億円)

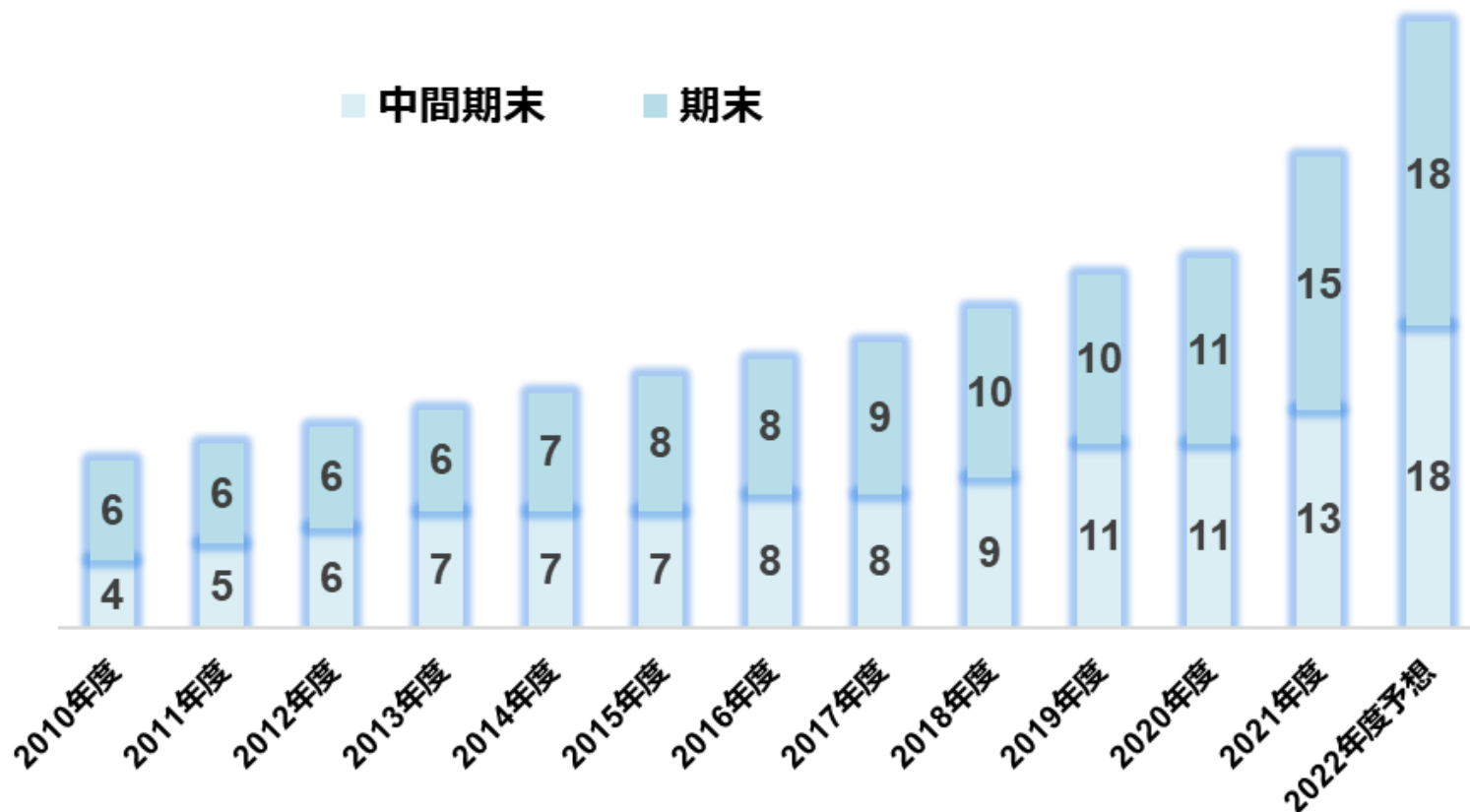
【売上高】	年間予想 (10/31時点)	上期	下期予想 (1/31時点)	年間修正予想 (1/31時点)	業績予想 差異
エラストマー素材	2,320	1,114	1,091	2,205	▲ 115
高機能材料	1,170	566	484	1,050	▲ 120
その他の事業、消去等	630	294	321	615	▲ 15
売上高合計	4,120	1,974	1,896	3,870	▲ 250

【営業利益】	年間予想 (10/31時点)	上期	下期予想 (1/31時点)	年間修正予想 (1/31時点)	業績予想 差異
エラストマー素材	160	93	7	100	▲ 60
高機能材料	245	116	74	190	▲ 55
その他の事業、消去等	▲ 10	▲ 8	▲ 3	▲ 11	▲ 1
営業利益合計	395	202	78	280	▲ 115

■ 年度業績予想を売上高3,870億円、営業利益280億円に修正

- ・US\$=130円、€=140円、国産ナフサ=¥66,400、アジアブタジエン=US\$873
- ・物流状況の改善は織り込み済

【配当金予想、単位：円】



安定的に継続的な
配当政策を継続
(方針に変更なし)

■ 当初予想を据え置く

- 2022年度の配当金は期末18円、年間36円を予想
- 対前年度比＋8円、2010年度から13期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2022年度 本決算発表	2023年4月26日（水）を予定
中期経営計画 説明会	2023年6月7日（水）を予定

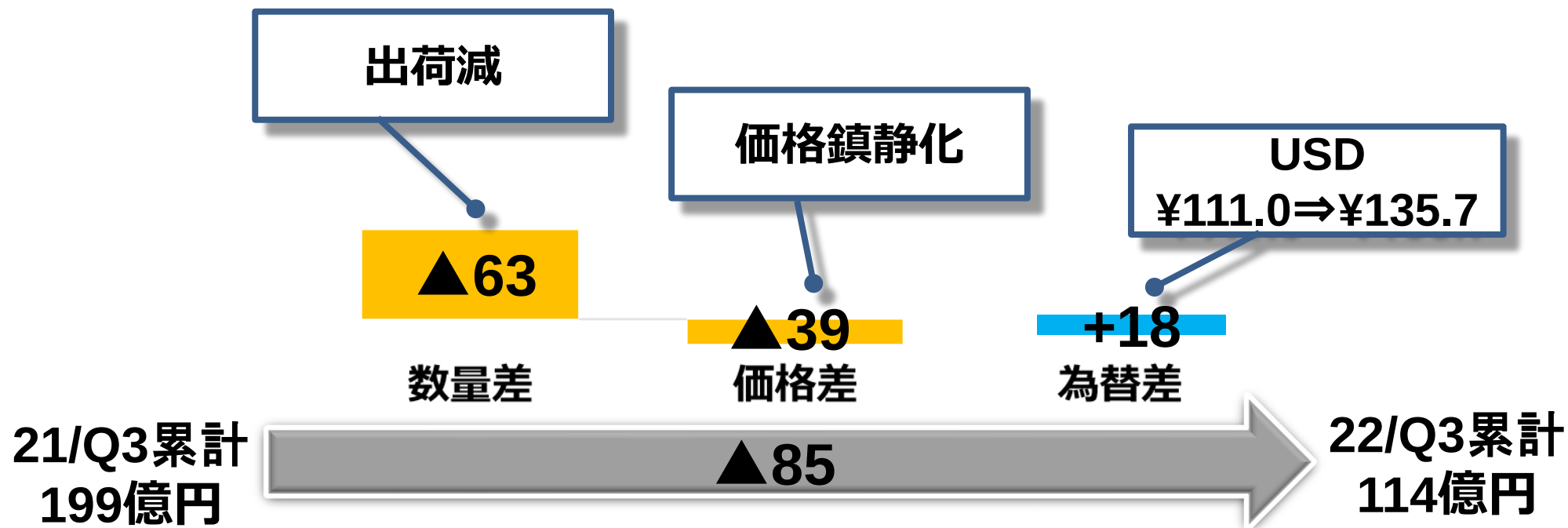
※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON
日本ゼオン株式会社

以 上

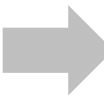
統合報告書は[こちら](#)

（単位：億円）



	2020年度 Q1	2021年度 Q3	2022年度 Q2	2022年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
単価								
21/3Q=100		100	85	88	▲ 12 pt	▲ 12 %	3 pt	4 %
20/1Q=100	100	187	162	164	-	-	-	-

2022年度Q3 (2022年度Q2比)				
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
合成ゴム				・主力工場定修・サプライチェーン在庫積み増し終息による出荷量減 ・販売価格改定・海外連結期(7-9月)好調で、売上は横ばいとなるも、営利は減少
ラテックス				・手袋向け流通在庫過多継続
化成品				・販売価格改定による反動で出荷量減が継続し、減収減益

2022年度Q3 (2022年度Q2比)				
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
光学樹脂				・医療その他向けQ2まとめ出荷による端境期 ・品目構成差により増収増益
光学フィルム				・中小型向け出荷の端境期、大型向け出荷回復 ・中小型向け出荷量減により減収減益
電池材料				・電池メーカー稼働率回復および中国春節前の需要前倒しにより、出荷量増 ・品目構成差により売上は横ばい、営利は増加

用途	2022年度市況動向 (21年度比)		状況変化
	10/31 時点	1/31 時点	
大型TV			大型フィルム本格回復遅れ (22/Q4⇒23/Q1へ)
スマートフォン		10/31時点 から変化なし	—
タブレット		10/31時点 から変化なし	—
ノートPC		10/31時点 から変化なし	—

※2022年度市況動向は、当社予測に基づいた当社製品の21年度比販売見立て

アップサイド

物流コスト減

エネルギーコスト減

海上運賃価格の更なる下落

石炭価格の下落

国内輸送費の更なる下落

ガス価格の下落

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

新型コロナ再拡大

円高ドル安

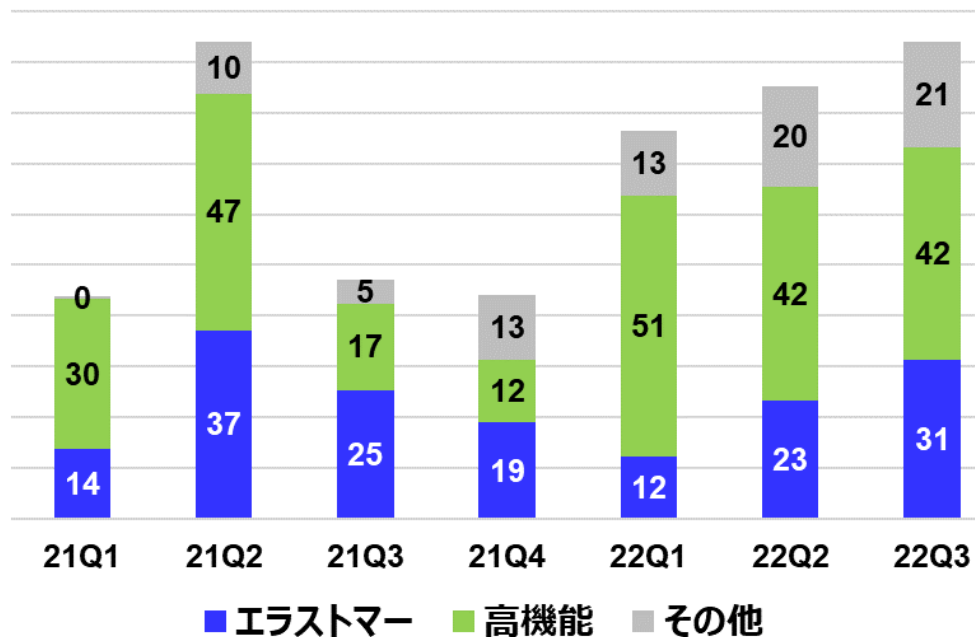
物価高・景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

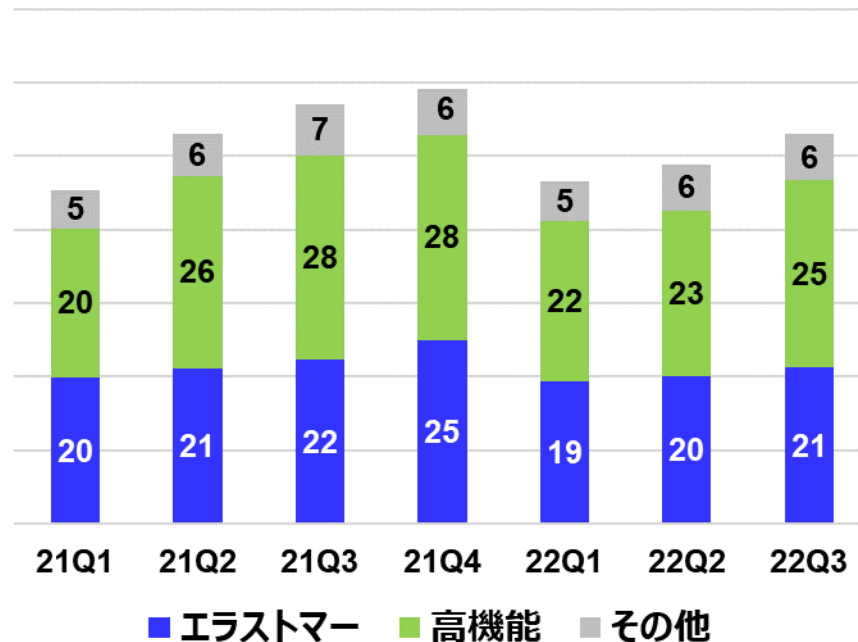


21年度実績
229億円



22年度予想
360億円

【減価償却費】



21年度実績
215億円



22年度予想
210億円